

# ウォーターフロント開発 8 プロジェクトの目的と特徴\*

## Purposes and Characteristics of Eight Waterfront Development Projects\*

横松宗治\*\*

By Muneharu YOKOMATSU\*\*

### 1. はじめに

1980 年代後半から現在まで、わが国はいわゆるバブル経済とその崩壊を経た。この間筆者が関わった国内 4 プロジェクトについて、その背景、計画・デザインの基盤、足場としたものを述べる。そして同じ期間に、対照的な社会経済環境にある中国大陆、台湾、韓国において計画した 4 プロジェクトを紹介する。

今日の意味でのウォーターフロント開発は主に'70 年代の北米の港湾地域の再生に始まる。わが国では'80 年代のリゾート開発がウォーターフロントの特徴的な時期を作り出した。

そして、引き続いて高度成長期に入った韓国、台湾、いまその時期にさしかかってきた中国大陆のウォーターフロントプロジェクトを挙げその目的と特徴を比較してみる。

さらに、成長期を過ぎたわが国のウォーターフロントは、その役割をやや変えてきているようである。

地域文化と社会経済環境としての時期の相違は、必然的にプロジェクトの目的、特徴の相違として

表れることを明らかにするために以下の比較を行うものである。

### 2. 8 プロジェクトの概要

#### (1) ハウステンボス計画<sup>1)</sup>

所在地...長崎県佐世保市。敷地規模...152ha。計画...1987～91 年。建設...1988～92 年。開発目的...未活用埋立地の活用と大規模観光都市の建設。

都市プランニングは、11、2 世紀から始まるオランダ沖積地域の港湾諸都市の形成過程を抽象し、典型的「都市形成史」を構想する。これを計画地の自然地形に適用する、というものである(図-1)。この方法は、都市機能のゾーン配置を基礎にした近代的な都市計画手法を否定的に超えようという試みである。運河などの施設の景観はオランダの景観を写し取る。移入の景観である(写真-1、写真-2)。

また、昭和 40 年代に工業団地を目的に埋め立てられた計画地は、使用されないまま放置されてきた。計画目的の一つは、埋め立てで失われた沿岸域における生態的な環境の回復である。



図-1 ハウステンボスの都市形成史

\* キーワーズ：ウォーターフロント，都市景観

\*\* 正員，工修，株式会社日本ランドデザイン

東京都新宿区西新宿 6-5-1，TEL:03-3346-2233

E-mail:yokomatsu@landdesign.co.jp)



写真-1 オランダ



写真-2 ハウステンボス

( 2 ) 長崎港常盤出島地区計画<sup>2)</sup>

所在地...長崎市・敷地規模...14ha・計画...1991  
～2001年・建設...1991年～現在・開発目的...港湾  
用地、公共施設用地の造成。

埋め立て地の中央を、山側の谷を流下する雨水  
排水路が貫通する。この水路を中央の運河とし、  
南北に自然潮汐による運河水交換を促進する支線  
運河を設けた(図-2、図-3、写真-3)。

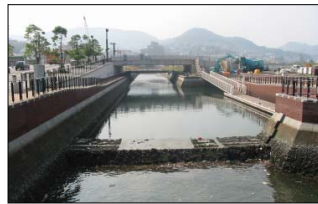
この運河は、都市アメニティに資するばかりで  
なく、港湾地域の生態的な環境の保全も目的とす  
る。



図-2 全体計画(模型)



図-3 雨水排水計画 写真-3 運河(現況)



( 3 ) 浜名湖頭脳公園計画<sup>3)</sup>

所在地...静岡県浜松市・敷地規模...100ha・計画  
...1991年～現在・建設...1992年～現在・開発目的  
...浜名湖岸のリゾート地の建設。

鰻養殖池は、浜名湖の浅瀬を締め切り造成され  
た(図-4)。養鰻業の海外移転によって、池は機能  
を失った。養鰻池の護岸を維持し新たな湖面の埋  
めたては行わない。池水面(内水面)を埋めたて  
ゴルフ場、ホテルなどのリゾート施設を建設する  
(図-5)。

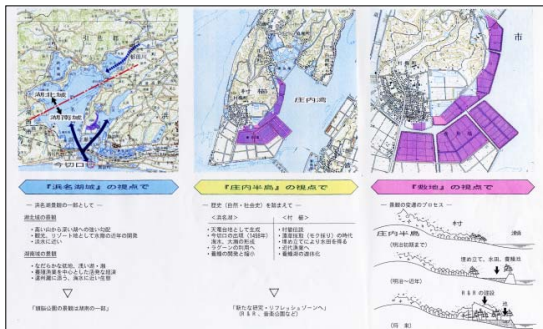


図-4 景観計画の3視点

護岸を維持し 新たな埋め立てを行わないこと  
によって生態的なインパクトも避け、長く親しま  
れた運河の景観も保全された。



図-5 全体計画図

( 4 ) 高松港港頭地区計画<sup>4)</sup>

所在地...香川県高松市・開発目的...港湾施設、  
公共施設用地および海浜の造成。

近世末まで行政と港湾の機能が水城高松城に置  
かれた(図-6)。近代になり本州側と四国の玄関口  
として繁栄したが、本四架橋の開通によってその  
役割は終了する。

提案された新たな景観は、中世以来海に向かっ  
て前進する人工  
海岸を二次的な  
自然として認識  
するものである  
(写真-4)。



図-6 近世の高松城



写真-4 新たな海岸風景

( 5 ) 仁川観光団地計画<sup>5)</sup>

所在地...韓国仁川市・敷地...約 380ha・計画...  
1995年・開発目的...新空港の隣接地として、大規  
模観光団地を建設する。



写真-5 堤体より海側の現況



写真-6 堤体より陸側の現況

敷地は水田などに使われてきた海岸沿いの低地湿地である(写真-5,6).南北の2河川を利用し,水系のアミューズメントパークを計画した(図-7).

欧米から移入したパークであり,自然的,社会的な地域景観との脈絡はない.



図-7 全体計画図

#### (6) 台中海洋公園計画<sup>6)</sup>

所在地...台湾台中市.敷地...90ha.計画...1997年.開発目的...工業系新市街地中心に都市公園を設ける(図-8).

海洋に面した立地を生かし,自然風の水際景観と生態を創る(図-9).造られた「自然」景観は,大

規模埋め立て地,工業系地区特有の「景観ストレ



図-8 新市街地計画図



図-9 海洋公園計画図

ス」を癒すことが期待される.

#### (7) 深せん海上世界計画<sup>7)</sup>

所在地...中国広東省深せん市.敷地...48ha.計画...2001年.建設...2002年~現在.開発目的...大規模商業観光施設と住宅地の建設.



写真-7 計画地の現況

深せん市は,過去20年間で漁村から700万人の都市となった.ほぼ全ての市民が中国全土から集まっている.本プロジェクトは同市東部の居住,娯楽拠点地域の形成である(写真-7).都市景観の直接的なルーツを持たない都市であるが,都市文化の基層を探し,

その都市形態を江南の「鎮(図-10)」に求める.土地利用を島単位,交通の幹線は水路とする計

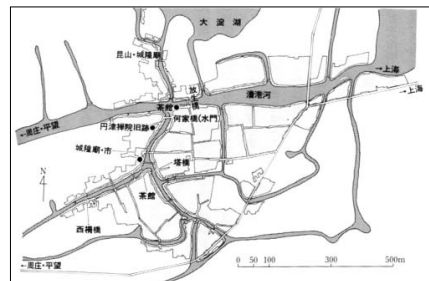


図-10 江南の鎮;朱家角<sup>8)</sup>

画である(図-11).



図-11 全体計画図

#### (8) 深せん大梅沙湖心島<sup>9)</sup>

所在地...中国広東省深せん市.敷地...2ha.計画...2001~02年.建設...2002年より.開発目的...海岸リゾート地の建設.

人工湖に浮かぶ人工島の施設を、地中海の島に形成された集落をイメージし 11 世紀から現在までの（擬似）歴史景観を形成する。ここでの景観の役割はエンタテインメントである。



写真-8 全体計画（模型）

### 3. 都市再生における各プロジェクトの目的

これまで述べた 8 プロジェクトは、いずれも既存都市域のほぼ中心市街地に接して、埋め立てによって新規の造成地を生み出したり、既存の地域のクリアランスによって新たな地域を形成しようとするものである。

そこでの開発の目的をまとめる。

目的 1 ...港湾地域の場合、水際線の開放とそれによる賑わいの創出を目的とする。わが国の多くの市街地のウォーターフロントは、港湾関係の施設で埋められ、市民の水際線へのアクセスは困難であった。港湾機能の変質とともにこの地域の再開発を図ろうとするものであり、そのパイオニアとして集客施設を設ける場合が多い。

目的 2 ...大型の観光リゾート地の形成。'80 年代までのわが国と現在の国外 4 プロジェクトにおいては、開発の主要な目的のひとつが大型観光施設の建設である。

目的 3 ...都市アメニティの形成。近世末までのわが国の多くの都市の水面、水際は主要なアメニティであった。

目的 4 ...風景の保全。東アジアの河口部、沖積地域には多くの水都が発達し、特徴ある都市風景を持っていた。近代の工業的な開発のなかでその風景が失われてきた。ここで述べるプロジェクトの多くは、直接的にその地域の景観ではない場合でも、同じ生活圏、文化圏の水系風景の保全を意

図している。

目的 5 ...生態系の保全。陸域と水域の接線であるウォーターフロントは、本来最も生態的に豊かな環境であった。従来の都市水際線は、港湾施設などが強固に施設され、この環境が失われている。わが国の '90 年代以降のウォーターフロント開発は、生態系の蘇生、保全を主要な目的のひとつとする場合が多い。

### 4. おわりに

比較のためにできるだけ多くの事例を挙げたかったが紙幅の制約によりわが国 4、同じ文化圏にある中国大陆、台湾、韓国 4 プロジェクトの特徴を述べた。

一応“先進的”といえるであろうわが国のウォーターフロント開発は、風景にしる、生態にしる、「保全」の時代に入っていることを改めて認識するものである。

本稿では時期的な差異、つまり経済環境と、プロジェクトの特徴の相違に注目してきた。しかしながらより顕著にその特徴を形づくる基盤は、プロジェクトの置かれた歴史文化的な土壌であろう。これは課題である。

#### 参考文献

- 1) 横松宗治：長崎オランダ村ハウステンボスの環境計画，近代建築 Vol.46，近代建築社，1992 年
- 2) ㈱日本設計ほか：長崎港都市再開発用地造成工事（常盤・出島地区水路基本設計）報告書：1994 年 3 月など。
- 3) ㈱日本設計：浜名湖頭脳公園全体計画 基本構想：1990 年 12 月
- 4) ㈱日本設計：港湾緑地計画図：1998 年
- 5) ㈱日本設計ほか：仁川観光団地全体計画図：1995 年
- 6) ㈱日本設計ほか：彰濱工業区開発工程 海洋公園企画：1997 年 7 月
- 7) ㈱日本設計：深せん蛇口海上世界地区城市設計報告書：2001 年 6 月
- 8) 陣内秀信：中国の水郷都市，鹿島出版会，1993
- 9) ㈱日本ランドデザイン：深せん市塩田区大梅沙湖心島設計報告書：2001 年 1 月